| 社会 | 第３学年 | 福山市立千年中学校 | 指導者　畠中　晋 |
|---|---|---|---|

単元名

# 「国の政治の仕組み」

**本単元で育成する資質・能力**

つながる知識，思考力・判断力・表現力，主体性・積極性，
深く考えようとする姿勢，共感力・優しさ・思いやり・助け合いの心

## 単 元 について

○単元観

本単元は，　中学校学習指導要領の公民的分野の内容２（３）「私たちと政治」にあたる単元である。

小学校では，学習指導要領第６学年の内容２（２）に「我が国の政治の働きについて，次のことを調査したり資料を活用したりして調べ，国民主権と関連付けて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること，現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えるようにする。」と示されている。

中学校では，「個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から認識させ，民主主義に関する理解を深めるとともに，国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う」を目標としている。

そこで本単元では，小学校の学習を踏まえ政治に参加することの意義について理解し，自分たちの将来のために意欲的に政治に参加しようとする態度を育成する。

○生徒観

本学級の生徒は，事前に行ったアンケートの結果では，「政治について興味がある」と答えた生徒は２７．５ポイント，「政治に積極的に参加したい」と答えた生徒が３１．０ポイントであり，政治への興味・関心が低いことが分かる。

また，小学校での既習内容である「「三権」とはそれぞれ何のことか」という質問に対して，正しく答えられた生徒は１０．３ポイントであった。また，具体的にどのようなことを知っているか質問したところ，「三権」が国会・内閣・裁判所を示すことや，モンテスキューによる権力の分立がいわれていることが挙げられた。これらのことから，政治の仕組みや働きについて知識が定着していない，言葉は知っているが意味や意義を理解していないという課題がある。

○指導観

本単元の学習では，我が国の政治の仕組みについて基本的な知識の定着を図るとともに，国民の政治参加の方法やその種類について学習し，知識の定着とともに，将来，積極的に政治に関わろうとする態度を養いたい。

そのために，国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ，議会制民主主義の意義について考えさせるとともに，多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。そして，民主政治をよりよく運営していくためにはどのようなことが必要かについて理解させ，近い将来，主権者として政治に参加することの意義について考えさせたい。

指導にあたっては，　生徒の学びが主体的となるよう，次の４点について指導する。

① 生徒に必然性を感じることのできる課題設定の工夫をする。
② 生徒に関心・意欲を持たせるために身近な政治の話題を取り上げ，社会的事象と身近なこととの関連付けを行う。
③ 身につけた知識や調べた情報をもとに，自分の考えを論理的に説明させる。
④ 関わり合いを通じて，他者の意見や異なる考えを真摯に受け止め，他者との違いを肯定的にとらえようとする。

また，本単元の学習の最後では，前単元で学習した「現代の民主政治」の知識を活かし，本単元で学習する「政治の仕組み」と結びつけてパフォーマンス課題に取り組ませたい。

## 単元の目標

（１）具体的な事例や時事的な話題を通して国会・内閣・裁判所の仕組みや役割に関心をもつことができる。

（２）国の政治の課題について，新聞記事やインターネットを基に資料を収集し，比較や話し合いを通して，多面的・多角的に考察することができる。

（３）模擬裁判などの活動を通して，国民の司法参加の意義について考え，裁判員制度に対する関心を高めるとともに，公正に判断することができる。

（４）国会・内閣・裁判所の地位や役割，相互関係のあらましを理解することができる。また，三権分立によって国民の自由や権利が守られ，民主政治が成り立っていることを理解することができる。

## 単元の評価規準

| ア　社会的事象への関心・意欲・態度 | イ　社会的な思考・判断・表現 | ウ　資料活用の技能 | エ　社会的事象についての知識・理解 |
|---|---|---|---|
| ①国の政治に関心を持ち，話し合いなどの活動に積極的に取り組んでいる。<br>②裁判委員制度をはじめとする司法制度改革について関心を持ち，意欲的に追究している。 | ①国の政治に関するさまざまな話題や事例から課題を見いだし，対立と合意，効率と公正などの観点から多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 | ①国会や内閣の仕事について，様々な資料を収集して必要な情報を選択し，読み取った内容を図表などに分かりやすくまとめている。<br>②裁判における国民の権利や，日本の司法の課題について，法令や判例，新聞記事などから的確に読み取っている。 | ①国会・内閣・裁判所の仕組みと働き，議院内閣制を中心とする三権分立の仕組みとその意義について理解し，その知識を身に付けている。<br>②司法権の独立と法に基づく裁判が憲法で保障されていることの意義を理解し，その知識を身に付けている。<br>③模擬裁判などの活動を通して，裁判の役割と国民の司法参加の意義を理解し，その知識を身に付けている。 |

## 資質・能力と評価の観点とのかかわり

| 本校の育てようとする資質・能力 | | | | 評価の観点 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 関 | 考 | 技 | 知 |
| 知識 | つながる知識 | 知 | ①「既習事項とのつながり」のある知識<br>②「他教科・領域とのつながり」のある知識<br>③「地域・社会とのつながり」を意識した知識<br>④これらが整理され，「将来へ活用できる」ことを実感できる知識 | | | | ○ |
| スキル | 思考力・判断力・表現力・ | 表 | ①比較し，関連付けて物事を考える力<br>②目的に応じて根拠をもとに判断できる力<br>③思考・判断に至った過程を振り返り，整合性等を検討する力<br>④自分の考えを相手に納得できるよう，分かりやすく伝える力 | | ○ | ○ | |
| 意欲態度 | 主体性・積極性 | 主 | ①自ら課題を見つけ，よりよく解決しようとする<br>②自ら進んで，前向きに取り組もうとする | ○ | | | |
| 価値観倫理観 | 深く考えようとする姿勢 | 深 | **「佇む」（たたずむ）こと，「はっと気づく」こと**<br>①広い視野と細かな配慮を持って物事を捉えようとする<br>②課題解決過程を振り返り，整合性や限界性を検討しようとする<br>③表面に見えていないものを感じ取り，深く施行しようとする<br>④創造的な思考を働かせ，新たな価値を発見・創造しようとする | | ○ | | |
| | 共感力<br>優しさ・思いやり・助け合いの心 | 優 | **こだまし，うなずくこと**<br>①他者意見を真摯に聴き，受け止め，相手目線で考えようとする<br>②自己肯定感を持った上で，他者との違いを肯定的に捉えようとする<br>③関わり合いを通して，優しさ，思いやり，感謝の心を持って行動しようとする<br>④仲間と協働し，ともに高まろうとする | ○ | | | |

## 単元として育てたい資質・能力のつながり

【知識】
〇国会・内閣・裁判所の仕組みを理解し，将来の政治参加にどのように活用することができるか実感する。（つながる知識）
【スキル】
〇必要な情報を読み取り，自分の考えを根拠立てて説明する。（思考力・判断力・表現力）
【意欲・態度】
〇国の政治に関する様々な課題を発見し，多面的・多角的に考察しようとしている。（主体性・積極性）
【価値観・倫理観】
〇関わり合いを通して，他者との違いを肯定的に受け止めようとする。（共感力・思いやり）

## 単元の終末におけるパフォーマンス評価

| パフォーマンス課題 | 評価基準 | |
|---|---|---|
| ・選挙権をもつ１８歳の自分へ「選挙に行きたい」と思えるような手紙を書こう。<br>※手紙の内容に関する注意点<br>①三権が分立している意義を踏まえて説得すること。<br>②政治と生活がつながっていることをアピールすること。<br>③多党制の意義をふまえること。 | A | 三つの注意点をふまえた上で，選挙への参加を呼びかけている。また，選挙以外の政治参加の方法についても提案している。 |
| | B | 三つの注意点をふまえた上で，選挙へ参加することを呼びかけている。 |
| | C | 政治参加の重要性についてふれ，選挙に参加することを呼びかけている。 |

## 指導と評価の計画

| 時 | 学習過程 | 学習内容 | 評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 関 | 考 | 技 | 知 | 評価規準<br>（評価方法） | ◇資質・能力育成場面<br>【資質・能力】<br>◆資質・能力評価場面<br>【資質・能力】<br>（評価方法） |
| 1 | 課題設定 | ・投票率の変化のグラフから，特に若い世代の投票率が低下している理由とその影響について考え，発表する。<br>・パフォーマンス課題の提案をする。 | ◎ | ○ | | | ア-①（行動観察）<br>イ-①（ワークシート） | ◇若い世代ほど投票率が低い理由について，自分の考えを発表する。<br>主ー① |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 情報の収集 | ・自分たちの生活に政治がどのように関わっているのか調べる。 | | | ◎ | | ウ–①（ワークシート） | ◇国会と内閣の仕事について調べた内容をもとに考えたことをまとめる。<br>表－① |
| 3 | 整理・分析 | ・調べたことから，国会の地位や議決の仕組みについて確認し，立法が国会の働きの中心であることをまとめる。 | | | | ◎ | エ–①（ノート） | ◇調べたことを元に国会や内閣の仕事やそれぞれの役割を理解する。<br>知－① |
| 4 | 整理・分析 | ・調べたことから行政の仕組みや内閣の仕事について整理し，社会の変化にともなう行政の役割の拡大についてまとめる。 | | | | ◎ | エ–①（ノート） | |
| 5 | 情報の収集 | ・裁判所の役割や種類，自分たちの生活との関わりについてについて調べる。 | ○ | | | ◎ | ア - ②（行動観察）<br>エ - ②（ワークシート） | ◇裁判所の種類やそれぞれの役割について理解している。<br>知－① |
| 6 | 整理・分析 | ・裁判所の働きと裁判の種類についてまとめ，人権保障の為に司法が重要な役割を持っていることを理解する。 | | | ○ | ◎ | ウ - ②（ワークシート）<br>エ - ③（ノート） | ◇人権を保障するための制度としての裁判所の仕事について理解する。<br>知－① |
| 7 | 実行 | ・模擬裁判を行い，根拠を基にした判決を出す。 | | ◎ | | | イ - ②（ノート・行動観察） | **◆根拠を基にして判決を出すことの重要性を理解し考えたことを表現する。**<br>**表－②**<br>**（ワークシート）** |
| 8 | 振り返り | ・三権分立の仕組みや意義について確認し，それぞれに対する国民のかかわりについてまとめる。 | | | | ◎ | エ - ①（ノート） | ◇三権の関係と国民の政治参加の仕組みについて理解する。<br>知－① |
| 9 | まとめ・創造・表現 | ・学習した内容をもとに政治への参加を呼びかける手紙を作成する。 | | ◎ | | | イ - ①（手紙） | ◇調べた内容や自分の考えを元に政治参加を呼びかける手紙を作成する。<br>深－② |

## 本時の学習

（1）本時の目標

模擬裁判の資料を通して考えたことを根拠を上げて説明できる。

（2） 準備物

実行

（3） 学習展開（7限目/9）

| | 学　習　活　動 | 指導上の留意点 | 評価規準<br>（評価方法）<br>【資質･能力の評価】 |
|---|---|---|---|
| 導入（10分） | ○前時の学習を振り返る。<br>○過去に起きた重大事件を掲示し，国民としてどのように感じるのか発表させる。<br>○本時のめあてをふまえた課題を提示する。 | ◇ 法の基づく裁判の保障が，人々の権利を守り社会秩序を維持していることを確認する。<br>◇ 重大な刑事事件については，国民の視点や感覚を裁判に取り入れるために，裁判員制度が導入されたことを確認する。<br>◇ 公平な裁判を行うためには，感覚だけでなく，証拠が必要であることに気付かせる。 | |
| | 【ねらい】<br>国民が裁判に参加するうえで，どのようなことが大切なのか説明できる。 | | |
| 展開（30分） | ○裁判の資料を確認する。<br>（別紙資料）<br>○資料から読み取った情報をもとに，自分の考えを班で発表する。<br>○班の判決を相談して決める。<br>○それぞれの考えを発表させ，クラス全体で判決を決める。 | ◇ それぞれの証拠品に検察と弁護士の弁論を掲示し，有罪と無罪の対立する意見から自分の考えを選択させる。<br>◇ なぜ有罪もしくは無罪と考えたのか，参考にした資料を挙げさせ，根拠となる情報を整理させる。<br>◇ 単に多数決で決めるのではなく，それぞれが根拠として考えた証拠を明確にして，有罪か無罪かの判決を班で決めさせる。<br>◇ 班で決定した判決について，理由を含めてクラスに発表させ，それぞれの意見をふまえ，協議を行い全体で判断させる。その際，できる限り全員一致の判決となることを目指す。<br>◇ 実際の裁判員裁判では，評決を出すために時間をかけ，慎重に評議が行われることを説明する。 | |
| まとめ（10分） | ○本時の学習を振り返る。 | ◇本時のまとめを書かせる。 | ◎根拠をもとに，裁判を行うことが大切であることを理解し考えたことを表現している。<br>イ-②<br>（発表・ワークシート）<br>【表②④】 |
| | 【まとめ】<br>裁判で判決を出すためには，根拠をもって判断することが重要である。 | | |
| | ○家庭学習の学習課題を提示する。<br>・「無罪推定の原則」をもとに資料から有罪の証拠として使えるものを探し，有罪とするときの刑罰を決める。 | ◇法定刑や事件の内容の資料を参考にして，妥当と思う刑罰を考えさせる。<br>◇それぞれが妥当と考える刑罰の重さの違いから，判決の公平性の維持といった課題があることに気付かせる。 | |